編集·発行

袋井市役所秘書広報課

〒437-8666

たって活発な交流が繰り広げられ 皆さんなどが加わって、総勢160 があり、現在東京で活躍している皆さん だいて「ふくろい東京交流会」を開催した。 人が一堂に会し、2時間余りにわ 東京から参加していただいた100人 1月末に、袋井出身者や、袋井にゆかり 袋井から出向いた商工関係者の 東京都内の都市センターへ集っていた 「鼻歌まじりに命がけ」

にあった。 京から見た袋井市への注文を聞くこ Rを東京で行ってもらうことや東 て、その輪を大きくしてもらうこと 交流会を開いたねらいは、市のP 東京にいる人同士が知りあっ

や「たまごふわふわ」、法多山のだん お茶、お米が調理して出され、地洒 ごなどの名産品もたくさん用意され 会場には、袋井市特産のメロンや いずれも大変な好評を得た。中 「必ず東京で売れるから」と勧

いることを知り、 改めて袋井出身の皆さんが東京で活躍して められた品もあった。 演歌歌手として活躍している松原健之さ 私も、50人以上の方と名刺交換をして、 心強く思った。

> 自分が袋井出身であることを参加者にア んも「見上げてごらん夜の星を」を歌って

顕彰板を作成した、東京藝術大学学長の宮 記念講演は、浅羽出身の近藤健次さんの 田先生にお願いした。

抜きリラックスしながら、 まじりに命がけ」と言い、 となった時には全力を尽くすことが 大切であると話された。 であると話された。 講演の中で、好きな言葉は「鼻歌 肩の力を いざ本番

見相反することを、うまく組み合わ ている。「鼻歌」と「命がけ」という一 の様々な場面で役立つ心構えが入っ 体験が込められているだけに、人生 いると思う。 せることによって力が増し、取り組 大きくなったりすることを示唆して んでいることが成功したり、成果が 7宮田学長のこの言葉には、自身の 鍛金の世界で、超一流の実績を持

ず役立つことと思っている。 輪が大きくなり、袋井市の将来の発展に必 みをこれからも続けていくことによっ さらに多くの人が集い、 交流会」であったが、こうした取り 今回は、初めての「ふくろい東京 交流を通して



参加しました。

開催され、男性5人を含む36人が

した生活自立ワークショップ」が

男女共同参画推進講座「料理を通

2月6日、月見の里学遊館で市

表紙のことば

毎月19日は、

●材料(4人分)

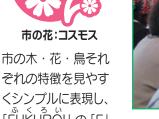
●作り方

- ①そばをゆで、水にとり軽く洗って、
- ②長ネギは、5cmの長さに切り縦4つ割に 豚肉は食べやすい大きさに切る
- 十に、みりん、酒を加え煮立て、豚肉を
- 374kcal/たんぱく質17.4g/脂質10.5g/カルシウム36mg/鉄2.0mg/ビタミンC5mg/ エネルギ



市の木:キンモクセイ







信將さんが「食と笑顔と心の持ちいましめに、料理研究家の神谷 料理」を楽しみました。 ひと手間かけた「ちょっと豪華な モアたつぷりに講演。講演後、参加 方 食育は人育、社育」と題し、ユー て、手際よく4品の料理を調理し、 した皆さんはアグループに分かれ

■市民の動き(平成24年2月1日現在) /87,061人(前月比+6人) 世帯数/31,108世帯(前月比+29)